

令和6年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設

公の施設の名称		宝塚市立中山台コミュニティセンター			
所在地		宝塚市中山桜台5丁目15番2号			
指定管理者	団体名	中山台コミュニティ	指定期間	開始日	令和3年4月1日
	所在地	宝塚市中山桜台5丁目15番2号		終了日	令和8年3月31日
選定方法		非公募	評価実施年		指定期間5年のうち3年目
施設設置目的		地域社会における市民相互の交流及び相互扶助並びに市民の主体的な学習活動等を促進し、連帯感のある新しいコミュニティづくりに資するため。			
主な実施事業		会館管理運営事業			

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
a 利用回数	回		1562		1921		2128		2393
b 稼働率	%		20.2		21.5		22.8		25.7
c									
d									
e									

3 指定管理業務にかかる収支状況

(単位:千円)

区 分		令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算
収入計	A	14,183	14,311	15,051	16,022
指定管理料		11,687	11,022	11,022	11,022
利用料収入	C	1,886	2,555	2,831	3,102
自主事業収入		0	0	0	0
その他		610	734	1,198	1,898
支出計	B	14,183	14,267	15,566	15,909
指定事業費		14,183	14,267	15,566	15,909
内、人件費	D	7,321	7,184	7,829	7,836
内、再委託料	E	2,626	2,644	2,480	2,776
自主事業費		0	0	0	0
事業収支	A-B	0	44	(515)	113
利用料金比率	C/A	13.3 %	17.9 %	18.8 %	19.4 %
人件費率	D/B	51.6 %	50.4 %	50.3 %	49.3 %
再委託費比率	E/B	18.5 %	18.5 %	15.9 %	17.4 %

・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。

・着色セルは、自動計算としている。

・事業費は、前年度以前の決算を記載する。

補足説明	
------	--

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目	評価基準	自己評価	所管評価
① サービスの履行の確認	法例に基づいた点検、報告の実施、個人情報への配慮、保守点検、清掃等の日常業務、緊急・災害時の市への円滑な連絡と協力等、業務の実施状況についての評価を行う。	A	A
② サービスの質の評価	事故防止、安全確保、環境への配慮、利用者に対する接遇、苦情処理への適切な対応等、利用者に提供するサービスの質の水準を評価する。	A	A
③ サービスの安定性の評価	専用の口座、帳簿等を備え、収支計画に沿って適切に経理、予算決算処理がなされているか評価を行う。	A	A
指定管理者所見 (成果、課題等)	①今年度は新型コロナも落ち着き、また災害警報もなく徐々にご利用者数が戻りつつある。年度末の3月2日は高圧ケーブルの交換工事のため、全館休館となり、3月21日～4月3日は中央図書館のコンピューターシステムの変更があり、中山台分室図書館のみ休館となり、ご利用者さまには大変ご不便をお掛けした。 ②今年度もコミュニティセンター内で、工事関係があり、また北駐車場の南面にある大木が倒木し、駐車場にある自動車に被害が出そうな所まで、迫ってきた。早速に市へ連絡をし、早急な応急処置をお願いした。ご利用者の方に安全・安心にご利用していただけるように今後とも十分に配慮する。 ③今年度のコミュニティセンター会計は、今年度も市よりの物価高騰等対策指定管理者継続支援金が交付され、また使用料のUP等で決算は黒字に転換となった。今後とも収支面で努力をしていきたいと考えている。		
施設所管課所見 (成果、課題等)	設備等の点検委託などを適切に実施され、適宜、その結果報告を市へ行っており、施設保全の面から貢献度は大きいと考える。 また、個人情報保護に適切に取り組むとともに、空調のこまめなオンオフや温度設定など、省エネに関する利用者への啓発に取り組むなど、高い水準の管理を徹底されている。 収支については、近年の光熱費や人件費が高騰している厳しい運営環境の中でやりくりされており、利用者への理解も得ながら運営管理をしていることは高い評価が得られると考える。 課題であった利用者数もコロナ禍以前に戻りつつあり、環境の変化とともに定期点検をこまめに行うなど利用者が気持ちよく利用できるよう努めていただいた結果が見えるといえる。 一方で受益者負担率を他の施設と比較した際には比較的低い負担率となっている。適正な負担率については今後の課題といえる。 今後も引き続き施設の維持と向上に努めてもらいたい。		
前年評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準:	A (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	B (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等に定める要求水準を満足していない。
総合評価:	A (優良) = 自己評価、所管評価の《総括》にCが含まれず、かつAが4つ以上ある。
	B (良好) = 優良、要改善以外の評価
	C (要改善) = 自己評価、所管評価の《総括》にCが2つ以上含まれる。